

## 土壌を異にする温州みかんの養分吸収について

清末哲男・綾森 強

(大分県農業技術センター)(国東柑橘指導所)

KIYOSUE, T. and AYAMORI, T.

## On Nutrient Intake of Citrus Unshu Plants in Some Soils.

大分県下に分布する温州みかん園の土壌条件のうち、理化学性の異なる二種の土壌について肥料の要素試験を実施したところ、夫々の土壌について二三の養分吸収上の特性が葉分析の結果からみられた。

## 試験方法

普通温州林系6年生、1区6樹(0.5a) 2連。試験区は4要素欠除区とN<sub>3</sub>段階(N<sub>1</sub>標準, N<sub>2</sub>倍, N<sub>3</sub>倍) K<sub>2</sub>段階(K<sub>1</sub>標準, K<sub>2</sub>倍)

供試土壌は黒ボク(表層腐植層NE 3°の平園, 供試2年目)と安山岩土壌(S15°の階段園, 重粘, 5年目)年間標準施肥量(両土壌共通 kg/a)

N<sub>1</sub>水準 0.8, P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 0.6, K<sub>1</sub>水準 0.7

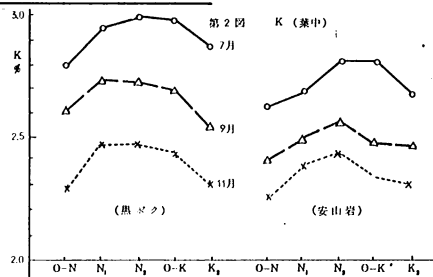
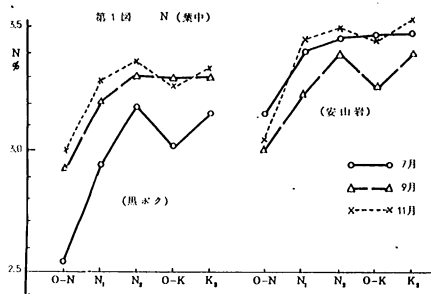
葉分析の採葉は春芽の中位葉を7, 9, 11月の3回に採取, 中助除去後分析。

## 結果および考察

1) 果実の酸含量については土壌間差異が明らかにみられ黒ボクで高く安山岩で低い傾向を示したが糖については一定の傾向がなく一般に高い水準にあった。このことは特に本年の気象条件(8~11月の干魃)が大きく影響したものとみられる。又糖の土壌別の処理差については両土壌全く逆の傾向を示した。

2) 各要素の土壌間差異が明確にみられたのはN, K, Ca, Mg, Mn, で安山岩に比べ黒ボクではN, Mg, Mn が低く, K, Ca, 含量が逆に高い傾向を示した。このことは黒ボク土壌の特性をよく示しているよう

である。



3) 時期別推移ではK, Ca によくみられ, 両者いづれも全く逆の傾向を示すことは第2, 3図に示すとおりである。尚黒ボク土壌での後期Ca 含量が高いことはK含量の場合と同様結果量と密接な関係があるものと考えられる。

4) 処理内容との関連ではN, K, Mn でよくみられN増につれて葉中Nは増加し, Kについても同様の傾向がみられたが, このことは安山岩土壌で顕著であった。Mn についてはN, K 増により葉中Mn が増加したがこの傾向は安山岩で顕著であったことから, この種土壌でのpHの急速な低下と密接に関連するものと考えられる。

